

映

いでは文化記念館収蔵写真展
2018.11.30(金) → 2019.4.15(月)

内藤正敏が映才
出羽三山の世界



- 開館時間 9:30～16:00(12月～3月)
9:00～16:00(4月～11月)
- 休館日 毎週火曜日、年末年始
(2018.12.29(土))～2019.1.3(木)
- 入館料 大人 400円
高校・大学生 300円
小・中学生 200円



いでは文化記念館

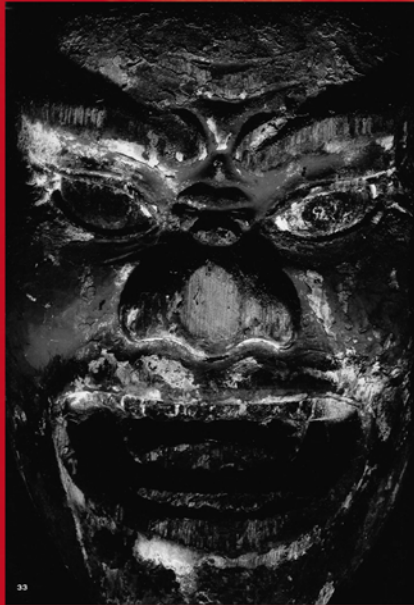
〒997-0211 山形県鶴岡市羽黒町手向学院主南72
Tel.0235-62-4727(代) Fax.0235-62-4729
E-mail: haguokanko@bz04.plala.or.jp



いでは文化記念館収蔵写真展
2018.11.30(金) → 2019.4.15(月)

内藤正敏が映す 出羽三山の世界

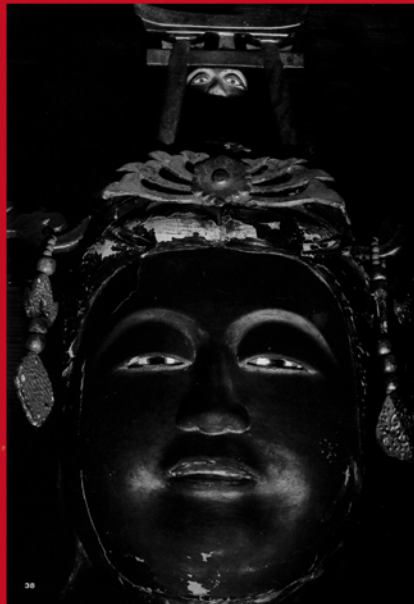
いでは文化記念館が所蔵する、写真家・内藤正敏氏による出羽三山の世界を撮影した写真作品を一堂に公開。写真家にして民俗学者、さらに羽黒山の山伏修行である「秋の峰入り」を経験した内藤氏が独特の世界観で映し出す、出羽三山の神仏・人・四季の様々な表情に迫ります。



『閻魔王像(大日坊)』



『不動明王像(正善院)』



『弁財天像(正善院)』



『愛染明王像(注連寺)』

「遠くからながめて美しい出羽三山も、
厳冬の吹雪の夜とか、夏でも深夜などに、
一変して底知れぬ恐ろしさをあらわすのだ。
それは一気に太古の時代につれもどされたような、
深くよどんだ質感につつまれていた。
あの得体の知れない恐ろしさは、いつたいてい何だったのだろうか。
昔の山伏たちが、憑かれたように霊山の奥深く修行にわけ入って
行ったのも、あの底知れぬ山の神秘感にひかれたためではなかったか。」

—内藤正敏『出羽三山—内藤正敏写真集』より

「東北の苛酷な風土に生きる人々に
必要だったのは、奈良や京都に
あるような美しい仏像よりも、
こわした力強くて生命力あふれる
神仏だったに違いない。」

—内藤正敏『日本の聖域 出羽三山と修験』より

内藤正敏(ないとうまさとし)
写真家。昭和十三年東京生まれ。早稲田大理工学部卒。
25歳の時に即身仏と出会ったのをきっかけに
東北の民間信仰をテーマに撮影と研究を重ねる。
土門拳賞、日本写真協会年度賞などを受賞。
民俗学者としての著書も多数。